

童話と紙芝居で鬼文化をPR

〔第2回鬼の童話コンテスト・第1回鬼の童話紙芝居コンテスト〕



▶『第1回鬼の童話紙芝居コンテスト』最優秀作品
※受賞作品は、市のホームページに掲載していますのでご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.city.noboribetsuhokkaido.jp>

耳を澄ませ、木札に集中 ～第19回登子連かるた大会～

1月27日(日)、登別市子ども会育成連絡協議会主催による『第19回登子連かるた大会』が市民会館中ホールで開催されました。

この大会は、伝統的遊戯・百人一首を通じて、子どもたちに仲間意識を高めてもらおうと開催されているもので、各地区の子ども会を代表する小学生9チーム、中学生3チームの58人が参加しました。

この大会を主催する登子連会長の川島芳治さんは、「年々参加する子どもたちが減っているのもっと多くの子どもたちに、この伝統的遊戯のすばらしさを知ってもらいたい」と木札に集中する子どもたちを見ながら話してくれました。



意識することが開発 ～男女共同参画講演会～

2月8日(金)、市民会館で『男女共同参画講演会』(登別市男女共同参画プラン推進協議会、登別市共催)が開催され、約160人の方が参加しました。

『女性の開発・男性の開発～世界と日本～』と題して行われた講演会では、北海道立女性プラザ館長や北海道東海大学教授として活躍している岡田淳子さんが、「1960年代、留学先のアメリカでは、結婚後もご主人の協力を得ながら働いたり、大学へ通ったり、社会に出ている女性がたくさんいて、日本より進んでいることに驚きました。私たちも、性別による社会的な役割分担のあり方を見つめ直し、女性も男性も家庭生活と社会活動が両立できる環境づくりを進めることがとても重要です」と、意識改革の必要性などを話していました。



2月21日(木)、『第2回鬼の童話コンテスト』と『第1回鬼の童話紙芝居コンテスト』の受賞者が発表されました。

鬼の童話コンテストは、市制施行30周年を記念して一昨年、登別市で開催された第10回全国鬼サミットを機に登別の鬼文化を全国へPRしようと企画されたもので、第2回目の今年は全国から520作品の応募があり、最優秀賞、優秀賞、奨励賞が選考されました。

最優秀賞は、鬼のお嫁さんが引き起こす笑いを誘う出来事を、幼稚園児の息子が明るい口調で語る片岡輝雄さん(東京都府中市在住)の作品『信一さんのお嫁さん』が選ばれました。

また、『第1回鬼の童話紙芝居コンテスト』は、第1回鬼の童話コンテストの受賞作品を題材に紙芝居を作るもので、応募21作品の中から、最優秀賞や優秀賞、特別賞などが選考され、最優秀賞に昨年の優秀賞受賞作品『おこりおに』を題材にして描いた芦田真弓さん(東京都江戸川区在住)の作品が選ばれました。今回受賞した紙芝居の作品は絵本にされ、保育所や幼稚園、小学校などに、配られます。

元気に冬の遊びを満喫

～第13回ふるさと冬まつり～

2月9日(日)、川上公園で『第13回ふるさと冬まつり』(登別市ふるさと広場実行委員会主催)が開かれ、多くの家族連れでにぎわいました。

会場には、実行委員会メンバー手づくりの雪の滑り台やチューブ滑り、雪中宝探し、たこあげ、ウサギやヒツジなど小動物と触れ合うコーナーなど楽しい催しが用意され、子どもたちはそり滑りなどに熱中し、元気に冬の外遊びを満喫しました。

また、登別市子ども会育成連絡協議会や登別市婦人短大同窓会などによるうどん、そばなどの軽食コーナーもあり、冷えきった体を温めていました。

